

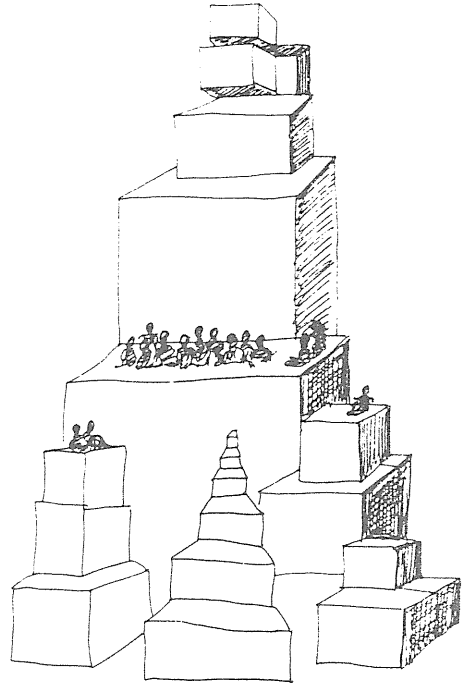
南山短期大学人間関係研究センター事業報告 (1993年度)

事業概要	103
社会人研修	104
1. 人間関係基礎研修講座（一般研修）	104
2. 人間関係専門研修講座（継続研修）	107
3. 人間関係特定研修講座	110
4. 社会人研修参加者統計	111
コンサルテーション	112
1994年度人間関係研究センター事業予定	114
南山短期大学人間関係研究センター規程	122

■ 事業概要

“ねむりこけたままほうられている人間が多すぎる”

—サン・テグジュペリ



センターの重要な活動である社会人のための公開講座は、1977年のセンターの発足時から毎年定期的に行われている基礎研修講座を中心に、各種の専門研修講座や特定研修講座を開催している。これらの講座は南山短期大学が地域社会に対してユニークな学習の場を提供する機能と同時に、センター研究員に対して教育訓練に関する多様な臨床研究の場を提供する機能を果たしている。

基礎研修講座（一般研修）は昨年春秋3回開催され、既に38回を重ねている。基本的なプログラムは週1回約3時間（午後6時30分～9時）の研修を10週間続けて1コースとし、体験学習による自己理解や他者理解、コミュニケーション・プロセス、グループ・プロセスの基本的な学習を目指している。受講者にとっては、利害関係にとらわれることなく、さまざまな人々と接触を持つことも魅力の一つであり、そこから新しい友人関係や仲間意識が生まれ、自主研修グループに育っていく場合もある。

専門研修（継続研修）としては、“自己理解を深める”研修と“グループ・プロセスの理解を深める”研修とが基礎研修に続く研修として開講されている。中部地区では、初めての、Tグループを中心として人間関係トレーニングやTAセミナーは回数を重ね、からだことばのセミナー、ボディワーク・セミナーも多くの受講者を迎えている。又、昨年開講された、ユング心理学、トレーナー・トレーニング、4年ぶりのゲシュタルト・アウェアネスセミナーも行われた。

特定の専門職にある人々のための特定研修講座としては、ワークショップ「教え・育てる」、組織の中での教育にかかわったり、関心を持っている人のための「ファシリテーター・トレーニング」も、開かれている。

一方、コンサルテーション活動は地域社会の個人や組織体に対してセンターが提供できる専門的機能であり、1984年度「名古屋いのちの電話準備委員会」約100名の電話相談員の「人間関係基礎訓練」以来、「名古屋いのちの電話」は、1985年7月から相談業務に入り、センターは毎年「人間関係基礎訓練」「継続研修」の訓練計画と実施の援助を続けている。種々主地域団体の研修プログラムをはじめ1989年度国立婦人会館、1990年度名古屋生涯教育センターからのプログラム開発に対して講師としてセンター研究員が派遣されている。

■ 社会人研修／人間関係基礎研修講座（一般研修）

第36回人間関係講座

開講期間：1993年4月26日～7月12日 毎週月曜日午前9時30分～12時

参加者：39名

担当者：伊藤 雅子・佐竹 一予

第37回人間関係講座

開講期間：1993年5月6日～7月15日 毎週木曜日午後6時30分～9時

参加者：41名

担当者：津村 俊充・寺西 佐稚代

第37回人間関係講座では、1993年5月6日から7月15日まで10回にわたって、以下のねらいのもとで、別表の日程に示されているように毎回実習を中心とした研修が行なわれた。

講座のねらい：

人間関係の体験学習を通して、

人との関わりの中で自分の課題を発見し、自分らしい生き方をさぐる

- (1) 自分のコミュニケーションのあり方に気づき
よりよいコミュニケーションのスキルをみがく
- (2) グループの中での自分と他者の動きに気づき
グループに援助的に働きかける力を育てる

今回の人間関係講座のプログラムの特徴として、2点を上げることができる。

まず、第一に10回とも、各回の講座の主たるテーマの学習に入る前に6時30分から20分ほどの“Welcome Time”のプログラムを導入したことである。この“Welcome Time”は、参加者の学習への興味・関心を深めたり広げたりすることや職場からやってこられて一日の研修に望むためのウォーミングアップとすることが主たる目的であった。第1回目の“Welcome Time”では、講座の開会と講座の進め方の説明を行なった。他に、心理臨床の実践や心理テストの紹介、また「見ること」「コミュニケーションとは」など基本的な心理学的現象の解説を行った。また、米国N T Lのスライドを見てもらったりして、自分自身の人間関係の問題だけでなく、このようなトレーニングの周辺の問題にも知的好奇心を広げていけるようにプログラムを構成した。

もう1点の特徴として、全体のプログラムの流れである。前半はグループのプロセスに焦点をあて、次いでコミュニケーション・プロセスに焦点をあて、後半は参加者一人ひとりの価値観や研修における自分自身のありようを探ることができるようなプログラムへと展開していった。

最後に、アンケートに記載して頂いた参加者の方々のいくつかの声を紹介しておきたいと思う。

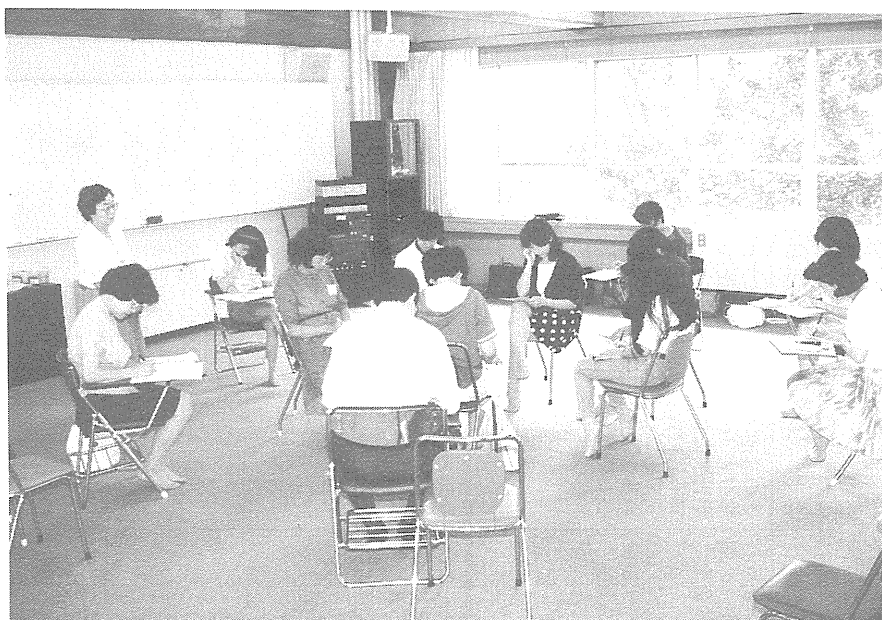
- *自分の姿に気づくことができた。もっとたくさんのフィードバックが欲しかった。
- *多くの人と知り合えたことが良かった。いろいろな人がいるなあとつくづく思う。
- *とにかく木曜日が待ち遠しかった。学習したことはなるべく実行、まず夫にtry。私は変わったと思います。
- *人も自分も大切であることを学んだ。
- *少しずつ価値観が変わったような気がします（いい意味で）。
- *自己防衛がはずれたことが良かった。
- *自分にとってコミュニケーションとはを考えることができた。

第38回人間関係講座

開講期間：1993年9月30日～12月9日 毎週木曜日午後6時30分～9時

参加者：43名

担当者：山口 真人・市瀬 英昭



第37回 人間関係講座 全日程表

人間関係研究センター
1993.5.6～7.15

① 5月6日	お互い知り合う講座への期待の共有化	Welcome Time オープニング講座の進め方	実習 「私の窓」	休憩	ミニレクチャー 「ねらいと体験学習」	18:30
② 5月13日	この講座での学び方を体験する。いまここで起きていることに関心を持つ	Welcome Time バウムテスト	実習 「パスは待ってくれない」	休憩	わかちあい	19:00
③ 5月20日	グループアプローチを觀察し、フィードバックする能力を高める。グループの中の自分の動きに気づく	Welcome Time スライドNTLの紹介	実習 「討議と觀察 (PO-PO)」 導入 個人記入 觀察の留意点の説明 話合い「危機からの脱出」 正解発表	休憩	プロセシナー ト記入 まとめの作業 0の話し合い ペアで話し合い	19:30
④ 5月27日	グループアプローチを觀察し、フィードバックする能力を高める。グループの中の自分の動きに気づく	Welcome Time 知覚「見る」 図と地	実習 「討議と觀察 (PO-PO)」 導入 個人記入 觀察の留意点の説明 話合い「危機からの脱出」 正解発表	休憩	プロセシナー ト記入 まとめの作業 0の話し合い ペアで話し合い	20:00
⑤ 6月3日	自分の話し方。きき方の特徴に気づく(1) 人との対話する時に起こる事柄に目を向ける	Welcome Time ビデオ「グロリアと三人のセラピスト」	ミニレクチャー 「プロセとコンテント」 実習「話しきく・み実施」 導入 わかちあい	休憩		20:30
⑥ 6月10日	自分の話し方。きき方の特徴に気づく(2) 人との対話する時に起こる事柄に目を向ける	Welcome Time コミュニケーション・プロセスについて	実習 「聴く」 導入 デモンストレーション 実施 わかちあい	休憩		20:30
⑦ 6月24日	ノンバーバル・コミュニケーションを体験する。無言の探検に起こる様々なことに気づく	Welcome Time からだはほぐし	実習 「無言の探検」 導入 ぶりかえり	休憩		20:30
⑧ 7月1日	お互いの価値観に働きながら、コンセンサスを形成することに取り組みグループで話し合う時の動きに気づき、フィードバックするスキルを養う	Welcome Time 歌「切手のない贈物」	実習 「若い女性と水夫」 導入 個人決定 コンセンサスについて 集団決定発表 ぶりかえり	休憩		20:30
⑨ 7月8日	今の自分と対話をし、自分を表現してみる。自分の持っている様々な面に気づく	Welcome Time 体をリラクゼーション	実習 「セルフ・バック」	休憩	わかちあい 個人メモ	20:30
⑩ 7月15日	この講座での体験をふりかえり、自分の課題をさぐる	Welcome Time 心の四つの窓	実習 「私の気づき」 学び	休憩	トークタイム	21:00
					閉会 アンケート	

■ 社会人研修／人間関係専門研修講座（継続研修）

T A入門（トランザクショナル・アナリシス）

開講期間：1993年8月25日・26日・27日（3日間集中）

参加者：26名

担当者：中堀 仁四郎

T Aによる自己啓発

開講期間：1994年3月20日（日）～22日（火）2泊3日

場 所：（財）キープ協会・清泉寮

参加者：8名

担当者：中堀 仁四郎

ボディワーク・セミナー

開講期間：1993年5月8日～7月10日 毎週土曜日午後1時～4時

参加者：24名

担当者：グラバア 俊子

からだとことばのセミナー

開講期間：1993年7月20日・21日・22日（3日間集中）

参加者：35名

担当者：竹内 敏晴

ユング心理学

開講期間：1993年7月3日（土）4日（日）17日（土）18日（日）

参加者：10名

担当者：木村 晴子

セルフサイエンス・セミナー

開講期間：1993年9月24日～12月24日 毎週金曜日午後6時30分～9時

参加者：30名

担当者：津村 俊充

Tグループ（人間関係トレーニング）

開講期間：1993年9月11日（土）～16日（木） 5泊6日

場 所：(財)キープ協会・清泉寮

参加者：23名

担当者：星野 欣生・中堀 仁四郎・中野 清・津村 俊充

トレーナー・トレーニング

開講期間：1994年2月9日（水）～13日（日） 4泊5日

場 所：(財)キープ協会・清泉寮

参加者：11名

担当者：中堀 仁四郎・津村 俊充・山口 真人

ゲシュタルト・アウェアネスセミナー

開講期間：1993年8月28日（土）・29日（日）・9月4日（土）・5日（日）

参加者：14名

担当者：山口 真人

ゲシュタルト・アウェアネスセミナー

誰もが自分の中心に“生きるエネルギー”を持っています。しかし日常生活の中では表面的な人間関係や役割関係の中に埋もれてしまうことが多く、本当に自分の持っているエネルギーに触れることはむずかしいものです。

セミナーでは、ゲシュタルト技法を使って、“いま、ここ”で自分自身が体験していることへの気づき（アウェアネス）を高め、そこに浮かび上がってくる自分の“図”になっている部分とその背景になっている“地”の部分との分裂や対立や固着は、自分の中の実存的なエネルギーに触れることによって流動し、さらに自分自身の主体としての統合性を高めることによって、他者や環境への受動的依存的な生き方を主体的相互的（自立的）な生き方へと変革することが可能になるでしょう。

セミナーでは、自分自身を語り、情動を表出し、実験し、出来る限り“いま・ここ”を“ありのまま”に生きることを試みます。

セミナーでは気づきの実習（たとえば、気づきの領域を拡大するための実習や誘導イメージによる自己への気づきを促す実習など）と個人ワーク希望者へのワークを中心に行いました。定員をオーバーしたため個人ワークの時間が不足して、希望者全員に応じられなかったのが残念でした。

アンケート集計結果

1. 満足度 不満足 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 満足

① ① ② ⑤ ②

- ・自分が手を上げるのが遅かったのだけど、ホットシートに座ることができなかった。完全燃焼できなかった。
- ・いくつかの気づきがあったから今後に生かせる。
- ・なつかしのゲシュタルトに参加でき自分の原点へたしかえった気がした。
- ・やっと山口先生の講座に参加できたから。
- ・あまりの満足でルンルンしすぎて不安な分“6”

2. 意味度 なかった 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 あった

① ④ ① ⑤

- ・まだまだ気づけなかった事がたくさんあったと思う。
- ・薔薇のファンタジーで、またタロットカードの実習で自分にとってプラスの素晴らしいものをもたらえたので。
- ・本来自分のものでないのを取り込んで苦しかったが、それを外に出すように努めたら楽になれると思う。
- ・過去何回か個人ワークをしてもらってきたけれど、今回、自分の成長を実感した。びっくりした。うれしかった。
- ・個人ワークもできたしバラのファンタジーで気づけたから。

3. 全体を通じてよかったこと

- ・「刻々ありのまま」をみて、そのままうけとめればいいということでだいぶ楽になれた気がする。何でもあっていいことなんだなと思った。そして自分にはどんな風にでもなれる可能性があるんだなと思う。
- ・私と対面できた事。パワー（自信、勇気）を得ることが出来た事。色々な人（考え方）が存在する事を知る事が出来た事。
- ・他の人のワークのときでも何人かの人から、その人のパワーをもらったり、その人に共感できたりした。
- ・自由な雰囲気気分で気楽に参加できた。
- ・自分の成長を実感できたこと。イキイキとした自分のエネルギーに触れて、それを実感すること

ができたこと。

- 人数が少なくてやわらかい雰囲気であった事。参加者が静かな人が多かったこと。昼食や夕食と一緒に食べられたこと。ファンタジーでみんなのものをきけたこと。
 - ゲシュタルトの考え方が実際として体験できたこと(自分ができなかったことは残念でしたけれど)
 - 自分をゆっくりみつめられた。
 - 実習です。
 - 他の人のことを深く知ったこと。
 - ゲシュタルトを受けて自分自身を受け入れられたこと。自分と同じように他人も大切だと思えたこと。
-

■ 社会人研修／人間関係特定研修講座

ワークショップ「教え・育てる人生」

開講期間：1993年11月8日～12月13日 毎週月曜日午前9時30分～12時

参加者：20名

担当者：河津 雄介（聖霊短期大学・百芳教育研究所）

ファシリテーター・トレーニング

開講期間：1993年10月2日～1994年3月5日 毎週土曜日午後2時～5時

参加者：13名

担当者：星野 欣生

■社会人研修／参加者統計（1993年度）

講座名	場所	担当者	期 間	時 間	曜 日	参加者数	性 別		居住地		職 業										年 齢					
							男	女	市 内	市 外	公務員	団 体 職 員	会 社 員	自 営 業	医 療 関 係	教 育 関 係	教 会 関 係	主 婦	学 生	そ の 他	無 答	20才	29才	30才	39才	40才
人間関係講座 No.33	南山短大	伊藤 佐竹	H5.4/26~7/12	9:30~12:00	月	1,103	260	843	685	418	64	54	289	32	113	154	42	189	84	69	13	527	273	209	84	10
人間関係講座 No.34	〃	津村 寺西	H5.5/6~7/15	18:30~21:00	木	41	4	37	24	17	3	4	13	2	5	7	0	3	3	1	0	17	9	6	8	1
人間関係講座 No.35	〃	山口 市彌	H5.9/30~12/9	18:30~21:00	木	43	4	39	30	13	2	4	11	3	6	6	0	7	1	3	0	11	16	11	5	0
計						1,226	270	956	755	471	69	62	313	37	124	171	42	222	90	76	20	560	311	242	102	11
前回まで						754	164	590	365	389	44	48	238	14	92	115	8	66	44	73	12	320	209	161	48	16
ボディーワーク・ゼミナール	南山短大	グラビア	H5.5/8~7/10	13:00~16:00	土	24	5	19	9	15	3	0	11	0	2	2	0	4	0	2	0	11	5	6	2	0
ユング心理学	〃	木村	H5.7/3.4.17.18		土・日	10	6	4	8	2	0	0	5	2	1	1	0	0	0	1	0	3	3	2	1	1
からだごとばのゼミナール	〃	竹内	H5.7/20~7/22	3日間集中		35	6	29	13	22	3	2	5	1	1	8	0	7	4	3	1	14	11	8	2	0
ゲシュタルト・アウェアネスゼミナール	〃	山口	H5.8/28.29, H5.9/4.5		土・日	14	3	11	6	8	1	1	4	3	0	1	0	1	0	3	0	5	3	5	1	0
Tグループ	清里 清泉寮	星野・中野 中堀・津村 山口	H5.9/11~9/16 H5.12/6	5泊6日		23	12	11	4	19	1	1	9	4	1	6	0	0	0	1	0	7	4	9	3	0
トリーナー・セラフサイエンス・ゼミナール	南山短大	津村	H5.9/24~12/24	4泊5日	金	11	6	5	3	8	1	3	0	0	1	2	1	0	0	3	0	2	3	5	1	0
TA入門	〃	中堀	H5.8/25~8/27	3日間集中		30	7	23	15	15	0	2	10	2	3	6	0	4	1	1	1	12	8	6	4	0
TAによる自己啓発	清里 清泉寮	中堀	H6.3/20~3/22	2泊3日		25	9	16	11	14	3	1	4	1	2	6	0	3	5	0	0	10	10	5	0	0
計						8	0	8	3	5	0	0	2	0	2	1	0	1	0	1	1	3	2	3	0	0
前回まで						934	218	716	437	497	56	58	288	27	105	148	9	86	54	88	15	387	258	210	62	17
WS「教え・育てる人生」	南山短大	河津	H5.11/8~11/6	9:30~12:00	月	20	2	18	11	9	0	1	1	0	0	2	0	12	1	3	0	3	10	4	2	1
フレイミング・トビエニング	〃	星野	H5.9/26~H6.1/30	14:00~17:00	土	13	4	9	3	10	1	0	2	0	2	4	1	2	0	1	0	2	2	7	2	0
計						272	87	185	131	141	6	9	51	9	15	108	28	20	3	18	5	49	104	75	38	6
総 計						2,432	575	1,857	1,321	1,091	131	129	652	73	244	427	79	328	147	182	40	996	673	527	202	34

■ コンサルテーション

○「名古屋いのちの電話」電話相談員養成講座の計画と実施

「いのちの電話」は、訓練を受けたボランティアが電話を通して、さまざまな悩みや心の危機に直面しながら身近に相談できる相手がなく孤独の中にいる人たちの、良き相談相手になっていこうとする市民の奉仕活動である。1953年ロンドンで始められ、現在では世界40ヶ国、数百万都市に設立されている。日本では、1971年に「東京いのちの電話」が開設され、今日まで東京、横浜、京都、大阪など30余りの都市に設立され、「日本のいのちの電話連盟」を組織して各地でそれぞれ独自の活動をしている。

「名古屋いのちの電話」は全国で23番目の「いのちの電話」として1985年7月に開局し、現在150名余りのボランティアが年中無休の電話による心理的危機に対する援助活動に参加している。人間関係研究センターは、名古屋いのちの電話訓練委員会からの要請で、相談員養成講座の第一課程である人間関係基礎訓練のプログラムの立案と実施のコンサルテーションを行っている。

1986年7月には「名古屋いのちの電話」より感謝状の贈呈を受けた。

基礎訓練は「自己理解を深める」をねらいとして、一泊研修と、1回3時間のセッションを毎週1回、計8回の体験学習プログラムを立案し、1985年度は2期生（50名）の基礎訓練を1986年1月から3月に実施した。1986年度は第3期生（60名）の基礎訓練を1986年10月から12月に、1988年度は第4期生（37名）の基礎訓練を1988年4月から7月に、又継続研修も実施するようになった。1989年度は第5期生（32名）の基礎訓練を1989年9月から12月に、1991年度は第6期生（34名）の基礎訓練を1991年5月から7月に1992年度は第7期生（36名）の基礎訓練を1992年5月から7月に実施。1993年度は第8期生の基礎訓練を1993年9月から12月に実施される予定。

ねらい：「自己理解を深める」

- 自分の価値観（考え方や行動の特徴）に気づく。
- 自分のありのままを表現する。
- 相手のありのままを聴く。
- 対人関係（自分との、他人との）の中にある自分のあり方に気づく。
- 今、ここでの関係の中におこっていることに気づく。

この訓練は、電話相談員養成の目的で行われたものであるが、決して相談員となるための技能訓練ではない。社会の中で、人とのかかわりの中で、共に生きようとするときに、誰でも求められることがらの訓練としてプログラムされたものである。生涯学習のための一つのプログラムでもある。

1986～1993年度コンサルテーション及び依頼事業

(順不同)

講座名	主催
<p>電話相談コンサルテーション スクールODコンサルテーション リーダーとして備えるべきものは何か 情報を大切に教育 人間関係及びグループリーダー研修等 出会い・ふれあい・結婚 ヘルスカウンセリング指導者養成講座 教師と生徒とのコミュニケーション の中でどこまで訊けるか 人と人とのコミュニケーションについて 青少年担当者・指導者養成事業 箱庭療法 箱庭療法研究会 人間関係トレーニング(Tグループ) 「おとしよりと人間関係・チームワーク」体験学習 教師と生徒の人間関係 リーダーシップについて…理論と実践… 習熟度別学習指導について PFスタディーの理論と実践 人間関係トレーニング …自己理解・他者理解のために… 非行少年の箱庭 昭和63年春期アドバンスコース 患者理解を深めるために 箱庭療法ケースセミナー 人間関係をよくするために 女性が学ぶこと、ライフサイエンス カウンセリング講座 学校栄養職員研修会「リーダーシップの機能」 老人福祉関係職員等研修事業 勤労青少年リーダー養成研修会 企業経営＝職場でのコミュニケーション 私学協会教育相談研究会 サークル活動をデザイン 研修・研究の調査 女性講座 気づき重視トレーニングの科学的根拠をさぐる グループの中の人間関係 女性管理者養成講座 生徒指導のあり方 なごやかスタッフ養成研修 カウンセリングセミナー グループワークトレーニングの基礎知識 社内研修会「なぜ今“気づき”なのか」 名古屋市民大学「グループリーダーセミナー」 自主グループの研修会 ライフサイエンスをめざすもの 自分を知るプログラムの体験学習 ヒューマン・リレーションズ・ラブ 女性のための自己開発講座 青年リーダー養成講座 人間関係を豊かにするには 人間関係トレーニング 中堅看護婦として自己をふりかえり、 自分の立場を認識する よりよい人間関係を築くために なごや女性カレッジ 「おとしより・同僚と人間関係・チームワーク」 両親のためのコミュニケーション講座</p>	<p>名古屋いのちの電話 聖カピタニオ女子高等学校 東海理化労働組合 遠州カウンセリング研修会 名古屋市各区社会教育センター 名古屋瑞穂青年の家 愛知県教育委員会 愛知県私学協会研究部 東海市教育委員会 愛知県総務部 財団法人関西カウンセリングセンター 兵庫教育大学生徒指導講座 遠州カウセリング研究会 名古屋市民生局 中部地区カトリック中・高等学校教職員教育研修会 愛知県労働部 香川県立小豆島高等学校 宝塚市立教育研究所 財団法人関西カウセリングセンター 大阪家庭裁判所 関西カウンセリングセンター 浜松市立看護専門学校 メンタルヘルス研究所、東京 戸塚協会名古屋支部 名古屋市教育委員会：名古屋市婦人会館 愛知県看護協会 名古屋市教育委員会 名古屋市民生局 愛知県労働部労働福祉課 名古屋商工会議所 愛知県私学協会 名古屋市瑞穂青年の家 奈良県教育センター 春日井市いぶき会 名古屋市青年会議所 名古屋市婦人会館 日本経営管理協会中部支部 平和町立平和小学校 社会福祉法人名古屋市社会福祉協議会 社会福祉法人あさみどりの会 東海市教育委員会 東海市立青少年センター MMC/マーケティング・マネジメント・センター 名古屋市生涯教育センター 婦人学習相談員グループ 名古屋青年税理士連盟 国立婦人教育会館 聖マーガレット生涯教育研究所 滋賀県立婦人センター 小牧市教育委員会 名古屋市母子施設連盟 厚生連中央看護専門学校 藤枝市立志太総合病院 三重県市町村保健婦協議会 名古屋市教育委員会 名古屋市厚生院 あらたまメンタルクリニック</p>

■ 社会人研修／人間関係研究センター1994年度事業予定

南山短期大学人間関係研究センター
The Center for the Study of Human Relations
of Nanzan Junior College

個性ある生き方と人間性豊かな社会をつくり出すために

私たちは一人ひとり豊かな人間性と独自の個性を持ったかけがえのない存在です。ところが現代社会の中で私たちは役割の中に埋没し、互いに心を閉ざし、かかわり合うことをおそれ、人間をあたかも物の如くに扱い、自分も取るに足らぬ物としか感じられなくなっていないでしょうか。人間関係の教育は、対話を通して自分の価値観や人生観をみがき、他者への思いやりと感受性を豊かに養い、ひとりひとりが生かされるグループや共同体を形成し、人間疎外の社会を愛と信頼関係のあふれる人間尊重の社会へと変革することと、それらの担い手を育てることに取り組みます。いまこそ本当に人間関係の教育が必要とされているのです。

基礎研修

対話やコミュニケーションをするときの自分自身の、話し聴く能力、チームワークやリーダーシップなど、小集団の中での有効な人間関係のあり方などを、体験を通して学びます。特別に用意された実習を行いながら、その体験をお互いに報告し話し合い、まとめていくラボラトリーメソッドを使いますので、単なる講義とは違って、自分自身のあり方そのものを学ぶことができます。企業人、教育関係者、医療関係者、ボランティア活動家、主婦、学生など、人間や人間関係に関心を持っている方々にとって、最も気軽に参加できる体験学習の機会です。研修は毎週1回、10週間で1コースになるように計画されています。

第39回人間関係講座（春期・月曜日・午前9：30～12：00）

1994年4月25日

5月2日／9日／16日／23日／30日

6月6日／20日／27日

7月4日

担当者 星野 欣生・佐竹 一予

*南山学園コミュニティ・カレッジとの共催事業として行います。

第40回人間関係講座（春期・木曜日・午後6：30～9：00）

1994年4月28日

5月12日／19日／26日

6月2日／9日／23日／30日

7月7日／14日

担当者 木村 晴子・中野 清

第41回人間関係講座（秋期・木曜日・午後6：30～9：00）

1994年9月29日

10月6日／13日／20日／27日

11月17日／24日

12月1日／8日／15日日

担当者 伊藤 雅子・中村 和彦

*南山学園コミュニティ・カレッジとの共催事業として行います。

定員 各回とも30名

会場 南山短期大学

研修費 各回とも22,660円（消費税ならびに申込金2,000円を含む）

専門研修

Tグループ〔人間関係トレーニング〕

Tグループは、1947年にアメリカで始まり、その後世界各国で実施されている、深く人間関係を学ぶ集中的なトレーニングです。教育・福祉・医療など人間にかかわるすべての専門職業人や組織の管理者、人間や人間関係に関心を持っている方、自分の生き方を探っている方などにとっての必須の体験の場と言えるでしょう。Tグループでは、“いま、ここ”の場の中に起こっているコミュニケーションや相互影響関係についての気づきを、お互いにフィードバックしあいながら、自分自身を学び、人間関係のプロセスと本質を体験的に学んでいきます。それは一つ一つの影響関係がより深い人間関係を生み出し、次第にグループという有機体を形成していく過程を体験することにもなります。

担当者 伊藤 雅子・中堀 仁四郎・津村 俊充・中野 清

日程 1994年9月10日（土）～15日（木）5泊6日

フォローアップ 1994年12月4日（日）

定員 20名

会場 （財）キープ協会・清泉寮

〒407-03 山梨県北巨摩郡高根町清里 3545 TEL (0511) 48-2111

研修費 66,950円（消費税ならびに申込金2,000円を含む）
滞在費は実費（45,000円程度）を別途徴収させていただきます

トレーナー・トレーニング

このセミナーでは、関わりの中で、学び生きることを促進するための技能と態度を、まさに体験を通して学びます。Tグループを想定した状況の中で、参加者が交代で実際にトレーナー役を勤めたり観察者としてグループ状況をフィードバックしたりしながら、メンバーやグループの理解と介入に関しての理解を深めます。

プログラムの中では随時、ベテラントレーナーを交えてのディスカッションやケーススタディなども交えながら、許容的な雰囲気の中で相互にクリティークを行います。

期待される成果は

- ・カウンセリングなどの基本になる「受容」「共感的理解」「自己一致」や「人間尊重の姿勢」などを、自分自身の生きた姿で点検できます。
- ・体験課程を促進する効果的な言葉かけや介入を学ぶことが出来ます。
- ・組織や学級運営に役立つグループプロセスを観察・診断するスキルを修得できます。
- ・グループメンバーを尊重しながらグループを促進するように介入するスキルを修得できます。
- ・自分自身の介入の問題点や可能性を探ることが出来ます。

*参加者の関心に応じて、ラボラトリーのデザインの問題や具体的なプログラミングの問題なども取り上げることができます。

担当者 中堀 仁四郎・津村 俊充・山口 真人

日程 1995年2月9日（木）～13日（月）4泊5日

定員 18名

参加資格 Tグループ、エンカウンターグループなどの構造化されていないグループ体験のある方、または、それらに準じた体験学習を経験しておられる方で、トレーニングスキルの修得を目的にしている方。

（不明な場合はセンターまでお問い合わせ下さい）

会場 （財）キープ協会・清泉寮

〒407-03 山梨県北巨摩郡高根町清里 3545 TEL (0511) 48-2111

研修費 86,520円（消費税ならびに申込金2,000円を含む）

滞在費は実費（40,000円程度）を別途徴収させていただきます

TA入門〔トランザクショナル・アナリシス〕

TA (Transactional Analysis) はエリック・バーン博士(1910-1970)により開発され、のちに彼の仲間たちとともに発展させられた心理療法の体系です。

TAは、わたしたち誰もが基本的には“I'm OK, You're OK”の存在であるという価値観に基づいています。“今、ここ”に気づき、自らが自分の在り方を選びながら、自分のOKであることを確かめ、また相手とも肯定的な関係を作り出していきます。

TAは心理療法として発達しましたが、私たちの自分自身との関係や他者との関係の改善、楽しい職場や家庭づくりなどに大いに生かすことが出来るものなのです。

この講座ではTAの基本的な考え方を理解し、体験学習の方法を用いて自己理解を深め、成長への手がかりをつかむことをねらいにします。

担当者 中堀 仁四郎

日程 1994年8月25日(木)～27日(土)3日間集中(通い)

定員 24名

会場 南山短期大学

研修費 24,720円(消費税ならびに申込金2,000円を含む)

TAによる自己啓発

TAを中心に、ゲシュタルトセラピーなどの考え方もとりいれながら、自己に焦点をあてます。ゆったりとした環境の中で、グループで助け合いながら、自分をふりかえったり、自分の可能性を探ったりして、エネルギーを充電する時としたいと思っています。

参加する人には、理論を学ぶよりも、自分自身に光を当ててみる、自分の可能性を確かめてみるといったことを期待しています。原則として、TAの入門のコース(当センターでなくてもよい)を経験されていることを望みます。

担当者 中堀 仁四郎

日程 1995年3月20日(月)～22日(水)2泊3日

定員 16名

会場 (財)キープ協会・清泉寮

〒407-03 山梨県北巨摩郡高根町清里3545 TEL (0551) 48-2111

研修費 31,930円(消費税ならびに申込金2,000円を含む)

滞在費は実費(25,000円程度)を別途徴収させていただきます。

ボディワーク・セミナー

21世紀に向けて、未知の大海原をひたすら航海を続けている私達ですが、様々な変化の中、今までにかかれた海図に頼ってられない気がします。また雲行きもあやしく、これから大きな嵐に遭遇しそうな気配です。そのような今、私達はどの様に方向を見定めていけばよいのでしょうか。

一つの方策として、地球上に育まれてきた命としての人間というところに立ち返り、私達のもつ三つの叡知（あたま・こころ・からだ）を見直してみたいと思います。

まず羅針盤としてのからだの叡智のほこりを払い、三つの叡智の本来の力をとりもどし三つが共に働くようにできたらと思います。

呼吸をしていること

ゆったりしていること

感じとること

生き生きしていること

これらをじっくり味わうことから始めたいと思います。

担当者 グラバア 俊子

日 程 1994年7月30日（土）／31日（日）（宿泊）

8月6日（土）／7日（日）

定 員 20名

会 場 南山短期大学

研修費 24,720円（消費税ならびに申込金2,000円を含む）

からだとことばのセミナー

人と人と向きあい、近より、ふれ、かかわり、そして応え、ことばを交わすこと、その基盤となる自分のからだに気づき、動き出してゆくことを試みてみたいと思います。

- ・ひとにふれ切れない自分に気づく
- ・自らのからだのこわばりに気づく
- ・からだをときほぐす
- ・感じるままに動く
- ・他者に働きかける
- ・ことばで働きかけ、そして応える

短い時間でどれだけのことが成り立つかわかりませんが、からだ全体が深くいきいきと動き出す感覚が、湧き出てきたらいいな、と思います。

担当者 竹内敏晴

日 程 1994年7月26日（火）～28日（木）3日間集中（通い）

定 員 30名

会 場 南山短期大学

研修費 38,110円（消費税ならびに申込金2,000円を含む）

セルフサイエンス・セミナー

日常生活や職場の中で、不快感だけが残るような結末の人間関係を経験されていないでしょうか？この研修ではそうした自分の対人行動のありかたを客観的に見つめるトレーニングを行います。学習の方法は『体験学習』を中心に行います。とりわけ、ウェインシュタイン教授（University of Massachusetts）が提唱するトランペット・セオリーに基づいて、細分化されたステップで『体験学習』を行います。同時に、自分の対人関係のあり方を客観的に捉えるために、また自分への気づきを深めるために、いくつかのスキルトレーニングと認知モデルを提供します。

最終的には、そうしたスキルとモデルを用いることによって、自分自身を自然科学者のように客観的に捉える目を養うことにあります。それ故、『セルフ・サイエンス』の名が付けられています。この研修はウェインシュタイン教授がマサチューセッツ大学において「セルフサイエンス」のプログラムの一貫として行っている「Education of the Self」の授業をベースにして行います。

担当者 津村 俊充

日 程 毎週木曜日12回午後6：30～9：00

1994年9月22日／29日

10月6日／13日／20日／27日

11月17日／24日

12月1日／8日／15日／22日

定 員 24名

会 場 南山短期大学

研修費 29,870円（消費税ならびに申込金2,000円を含む）

ワークショップ「教え・育てる」

耕された田畑に作物が豊かに育つように、豊かな人生が花開く土壌としての自己を耕すことがこのワークショップのねらいです。

わが子を育てることで人生を充実したものにしてゆく親としての人生、子供たちを教えることで人生を充実したものにしてゆく教師としての人生、いずれにおいても鍵となるのは、大人であるわたしたちが自分自身の中に、内なる「子供」をよみがえらせ生き生きと息づかせることです。

自分の中に「幼児」や「児童」や「青年」が生き生きと息づいている親や教師は、幼児や児童や青年と自分らしくしなやかにかわり、お互いを生かしあう関係を築くことができます。親として教師として、そして人間として生き生きと生きる人生に目を向けていただけたらと願っています。

担当者 河津 雄介（聖霊短期大学・百芳教育研究所）

日 程 毎週月曜日5回午前9：30～12：00

1994年11月7日／14日／21日／28日

12月5日

定 員 20名

参加資格 教育に関心の深い方

会 場 南山短期大学

研修費 19,570円（消費税ならびに申込金2,000円を含む）

ファシリテーター・トレーニング

このセミナーは、組織の中で教育にたずさわっている方や教育に関心を持っている方々がともに集い、体験学習の実習を計画実施・参加しながら、体験学習の推進者（ファシリテーター）としての自己のスキル（技能）開発に取り組み、さらにセミナーでのお互いの体験をふまえて広く教育の問題を考えていきたいと思っております。

セミナーのねらい

1. 体験学習とは何か、その現状・問題点・将来の方向などを探る。
2. 教育推進者（ファシリテーター）として、自分の教育観、姿勢、学習者とのかわり方などを検討する。
3. 組織内教育のさまざまな展開方法を探り、プログラムをつくり実施するスキルを養う。
4. 参加者相互のかわりを深める。
（相互理解、チーム作り、情報交換など）

担当者 星野 欣生

日 程 毎週土曜日13回午後1：30～4：30

1994年10月1日／8日／15日／22日

11月5日

12月3日／17日／28日

1995年1月14日／21日／28日

2月4日／18日

定 員 18名

参加資格 何らかの体験学習を経験したことのある方

(不明の場合はお問い合わせ下さい)

会 場 南山短期大学

研修費 48,410円(消費税ならびに申込金2,000円を含む)

【問い合わせ先】南山短期大学人間関係研究センター

TEL.052-832-6214(内線268)

FAX.052-832-6210

南山短期大学人間関係研究センター規程

第1条 本学に南山短期大学人間関係研究センター（The Center for the Study of Human Relations of Nanzan Junior College）（以下「センター」という。）をおく。

第2条 センターは、キリスト教的人間観に立って広く学際的・行動科学的に人間・人間関係の研究および研修を行うことを目的とする。

第3条 前条の目的を達成するために、次の各号の事を行う。

- 1 人間・人間関係に関する研究と教育の推進
- 2 センターと目的を共通にする学外研究機関との協力
- 3 地域社会における開かれた大学としての諸機能を果たすために研究会・研修会等の開催および個別的相談・指導・援助等
- 4 研究成果の刊行および文献・資料の収集と一般への公開
- 5 その他センターの目的達成のために必要と認める事業

第4条 センターに研究員を置き、そのうち1名をセンター長とする。

- ② 研究員およびセンター長は学長が委嘱する。

第5条 センター長は、センターの事業を掌理し、センターを代表する。

第6条 センターは、必要に応じて顧問、相談員および講師をおくことができる。

第7条 センターは、その目的にそって研修しようとするものを研修生として受け入れ指導・援助を行う。

- ② 研修生についての規程は、別に定める。

第8条 センターに事務職員をおく。

- ② 事務職員は、センター長の指示をうけてセンターの事務を担当する。

付 則

本規程は、昭和52年9月30日より実施する。

南山短期大学人間関係研究センター研究員

（1993年4月～1994年3月）

センター長 伊藤 雅子

研究員 グラバア俊子 樋田大二郎 星野 欣生 市瀬 英昭 河津 雄介

木村 晴子 まどか庸代 水野 道子 文珠紀久野 中堀仁四郎

中野 清 大森 正樹 R. A.メリット 竹内 敏晴 津村 俊充

山口 真人 (A B C順)

事務局 柴原 香里

編集後記

新しい企てを起こし、新しい目標をもってことにあたるためには、その都度の成果を広く公にし、大方の批判を仰ぐ必要があるのだろう。人間関係科の研究・教育が一つの小さな閉鎖地域の秘め事にならないためには、ここに集う教員が何をどう考えているのかを言語化することこそは当然の義務といえるだろう。それは人間関係科での言語が隠語とならないためにはどうしてもやらねばならいことであるように思う。そのためには他からの、別なサイドからの発言を受けるといふ、異なる風土からの挑戦に絶えず曝される必要があるのだ。外部からの投稿もその役を果たすだろうし、年一回行なわれる研究会は、そこで新しい人によるこの環境とは違ったところからの見解に触れ、意見を闘わせることで、特に強くそういう意味をもっていると思う。ただそうしたなかで何よりも重要なことは、われわれ一人一人がとられることのない、自由な考え方をしているかということである。

今回は特集を「自己実現」に定めた。それは決して新しいテーマではない。この今となっては言い古されたかに見える術語から、はたしてどんな新しい側面が見えてくるであろうか。あまりにも世間で通用しているような考えではなく、この言葉のもつ奥の意味を、あるいは真の意味を、もし各執筆者が各自各様に展開していれば、この試みはいくぶんかは成功したことになるだろう。

特別研究会においていただいた梶田先生には貴重な示唆をいただき、またその講演を本紙に掲載するにあたり、丁寧に目を通していただいたことに、感謝したい。本号投稿の各研究員はもちろんのこと、今回外部から投稿していただいた寺西さん（人間関係科卒業生）にも感謝したい。こうして様々な要素をもった大きな輪が徐々に広がってくることを期待したいものである。

それにしても、この紀要ははたして冒頭に触れた目的にそうものであるだろうか。

（大森 正樹 記）

人間関係 創刊号 1984

人間関係 第2・3号 合併号 1985

目次

特別講演 コンティンジェンシー理論について—現状と課題— 野中郁次郎・ 2
 特 稿 「Tグループ」
 JICEラボラトリー・トレーニングの発展(その1)……………中庭仁四郎・ 11
 高等教育におけるTグループの実践……………星野欣生・山口真人・ 36
 人間関係科Tグループ実践をめぐって……………座 談 会・ 77
 Tグループによる学習過程理解のための方法的研究1) 一学生の形容詞語表現による学習理解への多角的アプローチ— 津村 俊充・ 90
 Tグループに於ける女性
 一規範と性役割に由来する問題点—……………KANTER・倉澤俊三・ 99

専載報告 (1977年~1983年)

I 研究会
 1. 「コンティンジェンシー理論について」……………野中郁次郎(福大)・ 108
 一現状と課題—
 2. 「大学教育におけるTグループ適用の試み」……………星野 欣生(南山短大)
 一教育の革新を求めて—……………山口 真人(南山短大)・ 109
 3. 「これからのカウンセリングのあり方」……………小林 純(上智大)・ 111
 4. 「わたしの歩んできた道」……………塩山 徳嗣(上智大)・ 113
 5. 「ヒューマニスティック・エデュケーションの動向と自己成長への身体的アプローチ」……………グラバア俊子(南山短大)・ 116
 6. 「フーバーと教育」—我と故を中心に—……………義行寺 功(金沢大)・ 118
 7. 「With-nessということ」……………星野 欣生(南山短大)・ 120
 一教師・学生関係について—
 8. 「関係の神学」……………奥村一郎(聖母学院短大)・ 122
 9. 「教育を考えたおぼろ」……………伊東 博(福岡国大)・ 126
 10. 「からだ、ことば」……………竹内敏晴(宮城教育大)・ 128

II 社会人研修
 1. 人間関係基礎研修講座……………132
 2. 人間関係専門研修講座……………134
 3. 人間関係特定研修講座……………137
 4. 社会人研修参加者統計……………140
 5. 1984年度社会人研修予定……………141

III 南山短期大学人間関係研究センター—規程—……………142

IV 南山短期大学人間関係研究センター—研究員—……………143

目次

特別研究会 人間関係の教育……………河合 肇雄・ 2
 特 稿 「人間教育における体験学習」
 I 高等教育における体験学習
 1. 南山短期大学人間関係科の教育の概観……………星野 欣生・ 39
 一10年の歴史と展望—
 2. 人間関係科における教育の試み……………R. A. メリット・ 47
 一見直された体験学習—
 3. 「人間関係科」による「体験学習」……………柳原 光・ 64
 一トレーニングから学習へ—
 II 南山短期大学人間関係科の10年
 1. 教育の実践……………83
 一年次の授業の流れ……………伊藤 雅之・ 124
 2) 人間関係概論A、B……………柳原 光・ 89
 3) 人間関係基礎論I(哲学的基础・問演習)……………倉澤 俊三・ 95
 4) 人間関係基礎論II(心理学的基礎・問演習)……………グラバア俊子・ 100
 5) 人間関係基礎論III(社会的基礎・問演習)……………山口 真人・ 106
 6) 人間関係研究法(その1)……………星野 欣生・ 114
 7) 人間関係研究法(その2)……………星野 欣生・ 117
 一フィールドワーク—
 一二年次の授業の流れ……………123
 8) 人間関係各論I(家庭に関する領域)……………伊藤 雅之・ 124
 9) 人間関係各論II(組織・集団に関する領域)……………山口 真人・ 132
 10) 人間関係各論III(文化に関する領域)……………塩山 茂彦・ 136
 11) 人間関係各論IV(教育に関する領域)……………R. A. メリット・倉澤俊三・ 141
 12) 人間関係各論V(援助法に関する領域)……………グラバア俊子・ 145
 13) 人間関係総合実習(総合習)……………山口 真人・ 150
 14) 人間関係実践演習II(卒業研究)……………星野 欣生・ 156

2. 学生の学びとその軌跡
 1) 在学2年間と卒業後5年間の個人の成長記録から……………倉澤 俊三・ 162
 2) 卒業生の進路調査から……………津村 俊充・ 179

3. 人間関係科に新しくかわる教員として
 1) 教師と学生のかわり方をめぐって……………米村 晴子・ 205
 一心理臨床分野の教員として—
 2) 「体験学習」を習得する……………中野 清・ 208
 一体験を初とコレは、知の獲得を求めて—

採 稿 JICEラボラトリー・トレーニングの発展(その2)……………中庭仁四郎・ 217

専載報告 (1984年)
 I 研究会
 1. 「もう一つの土曜塾—酒店のかみさんたち」……………矢野 正子(千葉大)・ 269
 2. 人間関係科における体験学習……………グラバア俊子(南山短大)・ 271
 一教員の十二年間—
 3. 体験学習と理論学習をめぐって……………中野 清(南山短大)・ 273
 一賛成を説く—
 II 社会人研修
 1. 人間関係基礎研修講座……………277
 2. 人間関係専門研修講座……………279
 3. 人間関係特定研修講座……………281
 4. コンサルテーション……………283
 5. 社会人研修参加者統計……………285
 6. 1985年度社会人研修予定……………286

III 南山短期大学人間関係研究センター—規程—……………288

人間関係 第4号 1986

目次

特別研究会 人間関係と自己表現……………竹内 敏晴・ 2
 特 稿 「自己表現」
 I 自己表現ワークショップからの報告
 自己表現ワークショップの概要……………山口 真人・ 33
 ワークショップ1「私の仮面作り」……………米村 晴子・ 36
 “ ” 2「自由に踊ろう、感ずるままに！」……………倉沢 俊三・ 46
 “ ” 3「クリエイティブ・ペインティング」……………山口 真人・ 53
 “ ” 4「オリエントミー」……………グラバア 俊子・ 60
 “ ” 5「情熱とスベイン舞踏—感情と表現—」……………まどか 藤代・ 71
 “ ” 6「絵本づくり—誕生—」……………文珠紀久野・ 86

II 自己表現をめぐっての考察
 1. チームづくりと自己表現……………星野 欣生・ 93
 2. 神秘体験にみる自己表現……………大森 正樹・ 98
 3. 現代文化と自己表現……………樋田大二郎・ 102

ミニレクチャー
 体験学習……………星野 欣生・ 109
 プロセスとは何か……………津村 俊充・ 116
 コミュニケーション・プロセス……………山口 真人・ 120

邦訳ミニレクチャー
 センシティブティ・トレーニングとは何か……………Charles Seashore(津村俊充訳)……………125
 グループ:その誕生から死まで of サイクル……………Richard C. Weber(津村俊充訳)……………130

レポート
 人間関係研究センター—社会人研修
 「人間関係基礎研修の理論と実際」……………津村 俊充・ 137
 専載報告 専載報告
 「私の人間関係体験学習の中で」……………高平百合子・ 150

専載報告 (1985, 1986年度)
 I 研究会
 1. 「今日からみた人間関係科創設の意義」……………津田 慶晴・ 153
 2. 「スペインにおける生命倫理研究の現状」……………まどか 藤代・ 155

II 社会人研修
 1. 人間関係基礎研修講座……………158
 2. 人間関係専門研修講座……………159
 3. 人間関係特定研修講座……………162
 4. コンサルテーション……………164
 5. 社会人研修参加者統計……………166
 6. 1987年度人間関係研究センター—事業予定—……………167

南山短期大学人間関係研究センター—規定—……………169

人間関係 第5号 1987

目次

巻頭言
 特別研究会: 「学習者を中心にすえた教育のあり方めぐって」……………星野 欣生
 特別研究会: 「学習者を中心にすえた教育のあり方めぐって」……………河津 雄介・ 2
 特集/グループの中に生きる
 1. 個を生かす集団・集団を生かす個……………星野 欣生・ 45
 2. キリスト教における個と集団……………市瀬 英昭・ 50
 3. 現代科学における個と集団の問題をめぐって……………まどか 藤代・ 55
 一原子論からバイオロジックの発想まで—
 4. 人間関係科の教育における個と集団……………山口 真人・ 69
 一関係に定位した教育の実現をめざして—
 5. 「個」と「集団」……………横山 彰・ 77
 一生涯教育実践からの考察—
 6. チームづくりのトレーニングと組織開発……………星野 欣生・ 91
 山元由美子
 猪熊 京子
 7. 企業内研修におけるグループ・トレーニング……………松本 寛之・ 121
 田辺 昂
 8. 南山短大における集団不適応……………米村 晴子・ 130
 一学生相談室開設に向けての報告—

ミニレクチャー
 援助するという意識……………竹内 敏晴・ 139
 態度価値と責任性存在……………大森 正樹・ 144
 対人感受性の開発……………山口 真人・ 149
 一人間関係トレーニングの原理と実際—

レポート
 NTLにおける最近のラボラトリー・トレーニング……………津村 俊充・ 157

専載報告 (1987年度)
 I. 研究会……………171
 II. 社会人研修
 1. 人間関係基礎研修講座……………175
 2. 人間関係専門研修講座……………178
 3. 人間関係特定研修講座……………180
 4. コンサルテーション……………183
 5. 社会人研修参加者統計……………185
 6. 1988年度人間関係研究センター—事業予定—……………186

南山短期大学人間関係研究センター—規定—……………190

目次

巻頭言 伊藤 稚子
特別研究会:「自己との対話 十年の図」 柳田 聖山... 1
「水月の任意付り中風のこと」 上原 輝男... 36
特集/対話
1. 対話的生成 宮本 桂... 49
2. からだの対話 竹内 敏晴... 57
3. Cross Cultural "Dialogue" in the Age of Commodity Culture R. A. メリット... 72
4. 礼一神と人との対話 市瀬 英昭... 89
5. 神との対話としての祈りとイコン 大森 正樹... 93
6. 聴くということ 木村 晴子... 97
7. 専門化社会とおせっかい 樋田大二郎... 103
一教師と生徒の対話について一考察一
8. 科学者と宗教人の対話 まどか麻代... 115
投稿: [翻訳] 人間学 O. マルカド (中野 清訳)... 127
レポート: 教師のためのセミナー 山口 真人... 147
ミニレクチャー:
アクション・リサーチ 星野 欣生... 155
人間関係の変革 山口 真人... 160
一社会的感受性と人間関係のスキル一
専攻報告 (1988年度)
1. 人間関係基礎研修講座 168
2. 人間関係専門研修講座 171
3. 人間関係特定研修講座 177
4. コンサルテーション 160
5. 社会人研修参加者統計 182
6. 1989年度人間関係研究センター事業予定 183
南山短期大学人間関係研究センター規定 187

目次

巻頭言 津村 俊亮
特別研究会:「体験学習とキリスト教教育」 坂口 順治... 1
特集/Tグループ再考
1. Tグループの倫理 中堀仁四郎... 35
2. Tグループと霊性教育 まどか麻代... 49
3. Tグループに関する2つの考察 木村 晴子... 60
4. ラボラトリー教育におけるプログラミングについての考察 津村 俊亮... 67
一Tグループを中心にした教育実践に向けて一
5. トレーナーになること 星野 欣生... 79
6. 対話的教育-M. ブーバーの教育論をめぐって 宮本 桂... 89
7. 学生にとってのTグループの意味 文珠紀久野... 99
8. Tグループに思う
(1) 遅い気づき R. A. メリット... 136
(2) Tグループトレーニングの場に臨むとき 倉澤 俊三... 138
(3) Tグループで思うこと 大森 正樹... 141
(4) Tグループトレーニングの経験と家族 伊藤 稚子... 143
(5) Tグループ実践への提案 津村 俊亮... 146
一私のTグループ体験から一
(6) wendepunkt-私のTグループ グラバア 俊子... 150
(7) Tグループ随感 竹内 敏晴... 153
レポート: Tグループの実践 浜本孝子・河原紀久子... 155
南山短期大学人間関係科でのTグループ合宿の動向 星野 欣生... 173
ミニレクチャー:
Tグループ 山口 真人... 179
TグループQ&A 星野 欣生... 189
人間関係とフードバック 津村 俊亮... 199
効果的なコミュニケーションのための5つの要素 中堀仁四郎... 203
専攻報告 (1989年度)
1. 社会人研修概要 209
2. 人間関係基礎研修講座 210
3. 人間関係専門研修講座 213
4. 人間関係特定研修講座 215
5. コンサルテーション 217
6. 社会人研修参加者統計 219
7. 1990年度人間関係研究センター事業予定 220
南山短期大学人間関係研究センター規定 225

目次

巻頭言 星野 欣生
特別研究会:「日本に於ける生涯学習の動向」 那須野隆一... 1
特集/生涯学習の実践 一学びつてなまよーに一
1. 生涯学習と体験学習 星野 欣生... 41
2. いま生涯学習に期待されるもの 伊藤 稚子... 55
一生涯学習と体験学習の人間関係教育一
3. 第二の大航海時代の生涯学習 グラバア 俊子... 81
4. 生涯の大事 竹内 敏晴... 94
5. 生涯教育方向性 リチャード・A・メリット... 100
6. 「生涯学習」権威 河津 雄介... 103
7. 人間関係基礎研修の理論と実際 津村 俊亮... 106
8. ボランティア活動と生涯学習 青木明子・山口真人... 119
一いの中の電話活動におけるボランティア相談員の成長一
9. セルフ・サイエンス 津村 俊亮... 130
一自己認識を深めるためのトレーニング一
10. ドストエフスキーを読む 大森 正樹... 139
一大人の読書会をやって一
11. 想起一礼拝における学び 市瀬 英昭... 142
12. 体験を通して「からだところ」の健康づくり 石田 幸栄... 146
13. 「体験学習」と自己理解 寺西佐雅代... 150
一学生から教師という立場になって思ったこと一
14. 私の教育メモ 吉川 房枝... 154
ミニレクチャー:
体験学習と学習ジャーナル 自己理解を深めるために一 津村 俊亮... 159
介入ということ 一構造化された実習において一 星野 欣生... 167
ふりかえりについて 一体験学習において一 星野 欣生... 173
専攻報告 (1990年度)
1. 社会人研修概要 177
2. 人間関係基礎研修講座 (一般研修) 178
3. 人間関係専門研修講座 (継続研修) 181
4. 人間関係特定研修講座 183
5. コンサルテーション 185
6. 社会人研修参加者統計 187
7. 1991年度人間関係研究センター事業予定 188
南山短期大学人間関係研究センター規程 193
あとがき 一生涯学習制度の基盤一 まどか麻代... 194

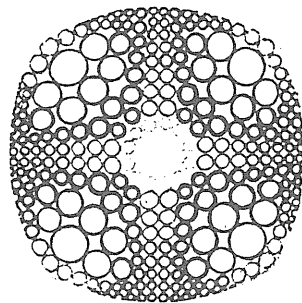
目次

巻頭言 中堀 仁四郎
特集/からだ
1. 開眼: 祈るからだ (竹内敏晴・大森正樹・中野清) ... 1
2. 「奇跡物語」にみる「からだ」の変容 (市瀬英昭) ... 36
3. 「表現するからだ」走り書き (竹内敏晴) ... 46
4. 「自己理解の手がかりとしての「からだへの気づき」 (寺西佐雅代) ... 53
特別研究会:「内側からみる」 (佐伯 幹) ... 61
研究ノート:
授業記録: 人間関係原論 (1989-90年度)
一学生とともに人間関係の原点をさぐる一
(竹内敏晴・山口真人・グラバア俊子・中野清) ... 107
教育に目的があって、情熱を抱いてはいけないのか
グランド・ストーリーなきあとの教育 (樋田大二郎) ... 147
ファジィとラボラトリー (体験学習) (星野欣生) ... 166
ミニレクチャー:
成長するための「神」一人間教育のひとつの意味 (木村晴子) ... 175
コミュニケーションのプロセスとその際要因 (津村俊亮) ... 181
非言語コミュニケーションからだの語ることば (グラバア俊子) ... 188
専攻報告 (1991年度)
事業概要 193
社会人研修
1. 人間関係基礎研修講座 (一般研修) 194
2. 人間関係専門研修講座 (継続研修) 197
3. 人間関係特定研修講座 198
4. 社会人研修参加者統計 199
コンサルテーション 200
1992年度人間関係研究センター事業予定 202
南山短期大学人間関係研究センター規程 209

人間関係 第10号 1992

目次

巻頭言	木村 晴子
特集/人間教育の核心—学ぶこと・変わること	
1. 林竹二先生について	(竹内敏晴・尾野欣生・米沢穂積) … 1
2. Tグループにおける集団と個の変化 —参加者の気づきと学びを中心にして—	(津村俊充) … 39
3. 性格は「変わる」? —「ゆらぎ」構造に目を向けて—	(大森正樹) … 89
4. 傍観者から共感者へ	(伊藤雅子) … 95
特別研究会:「人間科学の方法論」	(村上陽一郎) …103
ミニレクチャー:	
人間関係トレーニングにおける人間成長への変容モデル	(津村俊充) …139
より効果的な—ティングに向けて	Milstein,M.M. (津村俊充訳) …146
専業報告 (1992年度)	
事業概要	…153
社会人研修	
1. 人間関係基礎研修講座(一般研修)	…154
2. 人間関係専門研修講座(継続研修)	…156
3. 人間関係特定研修講座	…159
4. 社会人研修参加者統計	…160
コンサルテーション	…161
1993年度人間関係研究センター事業予定	…163
南山短期大学人間関係研究センター提稿	…172



人間関係 第11号
1994年3月20日 発行

編集発行者 〒466 名古屋市昭和区隼人町19番地
電話 (052) 832—6 2 1 4・6 2 1 1
FAX (052) 832—6 2 1 0
南山短期大学人間関係研究センター
代表者 伊藤 雅子

印刷所 (株)尾頭橋印刷所
名古屋市中川区南脇町3丁目20番地
電話 (052) 351—6 2 3 1番(代表)